

2021 年 5 月 7 日

通貨ニュース

マレーシア:5 月金融政策会合～早期追加利下げの可能性は限定的か

マレーシア中銀(BNM)は6日の金融政策委員会(MPC)で、翌日物政策金利を1.75%に据え置いた。ブルームバーグの事前予想では21人全員が現状維持としていた。昨年5月の利下げを最後に政策金利は5回連続で据え置きとなっており、リーマンショック後の2010年以来、史上最低での推移が続いている(図表1)。

声明文では、年初以降経済指標は改善が続いていることが指摘された。海外からの変異株が国内で確認されたことによって一部地域ではロックダウン措置が採られているが、現状経済成長に大きな支障をきたすものではないとの見解を示した。今後については、引き続き感染再拡大が進む可能性を警戒する必要があるものの、国内でのワクチン接種の進展や世界経済の回復に伴って国内での経済活動が活性化することで景気の改善は進むとしている。なお、BNMは3月末に公表した20年度の年次報告書にて、21年の成長率を前年比+6.0～+7.5%としており、当初から下限を▲0.5%ポイント下方修正していた。

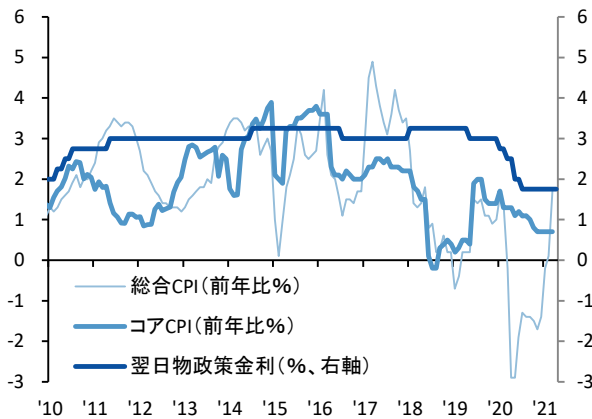
また、物価動向に関しては、昨年パンデミックの影響で大きくインフレ率が大きく落ち込んだため、今年はその水準からは上昇するとしており、BNMは前年比+2.5～+4.0%での推移を見込んでいる。現に、原油をはじめとする資源価格は緩やかながら回復に向かっており、図表2に示される通り、足許の物価動向はやや持ち直しつつある。しかし、一方で食料品と燃料価格を除いたコアCPIは引き続き軟調地合いとなっている。今年についても、同+0.5～1.5%に留まると予想しており、こうした点もBNMが引き続き緩やかな政策を継続する材料となったものと見られる。

BNMは現在の金融政策を適切とし、今後も物価水準と国内景気の動向を注視しながら、必要に応じて金融政策を活用していくと総括した。ただし、昨年のパンデミック時と比較して経済の下押し圧力は大きくないとしていることから、早期の追加緩和の可能性は低いものと思われる。

MYRの動向については、堅調な推移を予想する。中国に加えて米国でも感染抑制に効果が出たことでリスク許容度が改善し、原油、天然ゴム、パーム油といったコモディティの需要が伸びている。原油価格はMYR相場と高い相関があり(図表3)、MYRにとって追い風となろう。また米中両国はマレーシアにとって大きな貿易相手国で、コロナ禍においてもその存在感は大きく(図表4)、今後も外需主導での景気回復が期待される。一方、内需の回復はワクチンの接種の進展と共に徐々に現れてくると考えられるが、現在の景気回復軌道は国内のワクチン接種が21年1～3月期に完了することを前提としたものとなっている。国内の接種状況に関しては当面の間、注視する必要があるだろう。

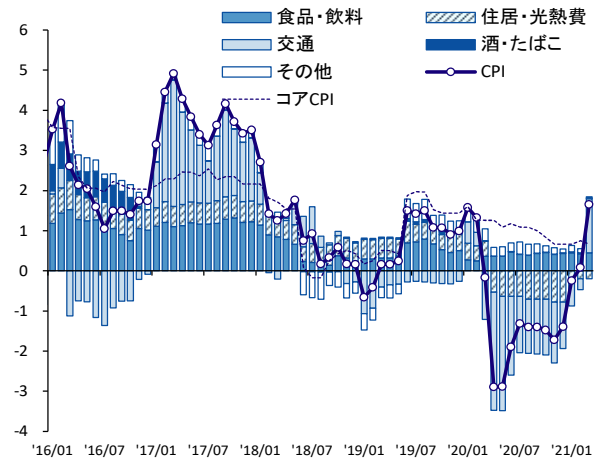
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利と消費者物価指数



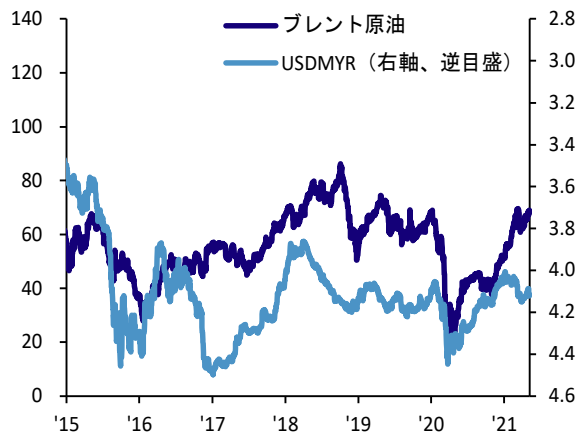
出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の内訳(前年比%)



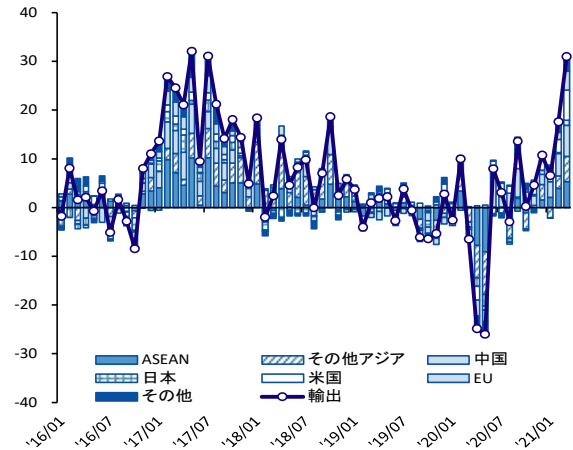
出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3: 原油価格とリンギ相場



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 輸出実績と地域別寄与度(前年比%, %ポイント)



出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。